

PIPES Newsletter

Private Investment in Public Equities ~ 第三者割当型エクイティファイナンス

今村公認会計士事務所

代表 今村 吉宏

調査部 今村 彰利

2025年2月の案件サマリー

当調査部の集計によると、2025年2月の案件数は18件、総額は約264億円だった。2025年累計総額は2,000億円を超え、昨年2024年通年で約6,000億円だったことから、ハイペースとも言える。

ただ2月は珍しく、日本3大証券（野村證券、大和証券、SMBC日興証券）、EVO、マッコリー、キャンター、ロングコリドー、Athosなどの「常連」が登場しない月だった。一方で、事業会社などのストラテジック投資家やアドバンテッジパートナーズといったハイブリッド（金融と事業）投資家が多くなった。

特筆すべきは、東京プロマーケット上場企業が2社（デジタルキューブと琉球アスティーダスポーツクラブ）が第三者割当を実施したことである。いよいよエクイティファイナンスの裾野が広がってきた。

No	発行決議日	発行企業	コード	調達予定金額	割当先	手法	騰落率
19	2/3/2025	ENECHANGE	4169	2,950,000,000	伊藤忠エネクス	新株	-23.2%
20	2/3/2025	デジタルキューブ	263A	90,000,000	みなど成長みらいファンド、7個人	新株	0.0%
21	2/6/2025	神東塗料	4615	389,890,000	大日本塗料	新株	-5.0%
22	2/12/2025	エムティアイ	9438	200,000,000	一ノ倉常務	新株	-15.0%
23	2/14/2025	トレードワークス	3997	539,448,000	SBI、松井証券、岩井コスモ	新株	4.2%
24	2/14/2025	サンパオ	4592	2,080,000,660	CVI	新株+CB	9.8%
25	2/14/2025	セキュア	4264	1,455,200,000	メルコホールディングス	新株	-10.3%
26	2/17/2025	琉球アスティーダスポーツクラブ	7364	20,000,000	個人（天田、内藤）	新株	0.0%
27	2/18/2025	データセクション	3905	3,024,688,000	ハヤテマネジメント	MSW	9.7%
28	2/21/2025	フジコピアン	7957	639,939,000	三田証券	MSW	-12.5%
29	2/21/2025	ファンベップ	4881	1,193,600,000	SBI証券	MSW	-12.0%
30	2/21/2025	サイバーセキュリティクラウド	4493	215,244,400	グロースキャピタル他	新株+MSW	-8.7%
31	2/26/2025	ウェルディッシュ	2901	700,000,000	ZUUターゲットファンド	ディスクонтCB	-4.2%
32	2/27/2025	ホリイードサービス	3077	460,267,500	第一ソフト他	新株+FSW	-2.1%
33	2/27/2025	日本マイクロニクス	6871	623,100,000	アドバンテスト	新株	-4.8%
34	2/27/2025	レック	7874	1,499,958,000	中西製作所	新株	0.6%
35	2/27/2025	タチエス	7239	10,018,020,120	アドバンテッジパートナーズ	CB+FSW	0.7%
36	2/28/2025	アイフリークモバイル	3845	339,660,000	個人（辛澤、黒田）	新株+MSW	-2.5%
2月調達予定額				26,439,015,680			
1月+2月調達予定額				200,094,341,188	騰落率は発表時株価と月末株価を比較		

2月のMVP ディール

2025年2月のMVP ディールは、以下の案件に決定したい。東京プロマーケット上場企業のエクイティファイナンスは極めて珍しい。発行会社、投資家、J-アドバイザーに称賛を贈りたい。(なお後段にて、和田 CFOとのインタビューも掲載)

プレスリリースより以下、抜粋

- 発行企業： デジタルキューブ（東証プロマーケット 263A）
- 本社： 兵庫県神戸市
- 手法： 新株
- 割当先： みなと成長企業みらいファンド+個人 7名
- J-アドバイザー： フィリップ証券
- 割当決議日： 2025年2月3日
- 発行額： 90,000,000円
- 発行価格： 800円（2024年10月24日上場時の初値）
- 発行株数： 112,500株（希薄化+24.3%）
- 業績： 3百万円（2025年3月末予想）

割当先である「みなと成長企業みらいファンド」の出資者は、みなと銀行（兵庫県神戸市）、みなとキャピタル、りそなキャピタルの3社である。このコアなインベスターの存在（全体の1/3割当）で、他個人7名も安心して相乗り投資できたのではなかろうか。

通常、銀行の役割はローン（貸出金）の提供がメインであるが、銀行系のファンドからエクイティ投資もなされれば、地元企業の成長や活性化に拍車がかり、地域創生も加速化すると期待される。

加えて、発行企業は東証スタンダードでもグロースでもないプロマーケット銘柄（以下、プロマ）である。通常、「プロマは資金調達できない」と言われることが多いが、見事に希薄化+24.3%も調達してくれたと思う。この点は、明確に未上場企業との差別化を見つけたのであるまい。

東証本則の上場維持基準が厳しくなる一方、裾野であるプロマ上場は広がっている（以下、参照）。昨年は、福岡プロマーケット市場も開設となった。

今後のプロマ上場数やエクイティファイナンスにも期待したい。

2023年～2024年 新規上場会社数

出典：フィリップ証券作成資料

新規上場会社数	2023年	2024年
東証プライム	2	4
東証スタンダード	23	15
東証グロース	67	65
名証メイン	8	15
名証ネクスト	1	4
福証本則	1	3
福証Qボード	1	3
札幌本則	0	1
東京プロマーケット	32	50
福岡プロマーケット	0	7

CFO インタビュー

- 対象企業 CFO : デジタルキューブ社 和田 CFO
- インタビュアー : 今村公認会計士事務所 調査部 今村彰利

Q1. この度の第三者割当に踏み切った背景や動機は何か？

A1. 自社プロダクトの開発費用（人件費）が主な資金使途です。みなと銀行からの借入金と合わせて調達しました。

Q2. 割当先はどうやって探してきたのか？

A2. みなと銀行の紹介です。また、小賀社長の経営者仲間・知人+役員陣も入ってもらいました。

Q3. 発行価格 800円の根拠は？

A3. 上場時の初値です。J-アドバイザーであるフィリップ証券が「プロ投資家」を発掘アレンジしてくれました。

Q4. 発行諸費用は総額いくらか？

A4. 約 50 万円程度とリーズナブルです。弁護士コスト、印刷費用、基準日広告（電子公告調査会社）等です。

Q5. 新株主が増えた中で、流動性（出来高）対策はどうするのか？

A5. 将来的に福証 Q-ボード上場を検討している。希薄化により流動性対策の意味合いもある。

Q6. 今後も第三者割当の第2回、3回目は可能性あるか？

A6. 未定です。但し、1年間に1億円未満だと有価証券通知書で事足りるが、超えると有価証券届出書必要になってくるので、発行コストとも相談の上決定していきたい。

Q7. 今後の本則上場は目指しているのか？そうだとしたら、時期や市場は？

Q7. あくまでも目標ですが、Q-ボード上場＝2027年目標。東証本則＝2030年目標としています。

和田 CFO、ありがとうございました。今後のステップアップ上場も頑張ってください！

お問い合わせ先

- 今村公認会計士事務所
- 090-1113-1281
- y_imamura@garden-grp.co.jp